

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 馬場 正  
 学科名・専攻名 農学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	カリキュラム・ポリシーに基づき、毎年見直しを行っている。とくに2018年度4月の学部改組による授業科目の大幅変更を踏まえ、学年進行にともなう授業の円滑な進行を図りながら、実施状況の把握に努めた。	3年生以降の演習および卒業論文作成を意識した教育を、1年生対象の基礎演習と共通演習など複数の科目で実施した。とくにプレゼンテーション力を高めることを目的とした。	シラバス作成、成績評価を大学の基準を順守するとともに、ディプロマ・ポリシーの検討を行い、あらためて教員間でその意味を共有した。	特に卒業論文は、学生との密度の高いコミュニケーションが必要であり、重視している。また客観的評価として、優れた卒業論文に学科長賞を授与、今年度からは各研究室の代表による学科の卒論発表会を開催して、多くの学生の意欲向上を図っている。	教育課程及びその内容、方法の適切性は、学科長・主事他数名の教員からなる農学科カリキュラム検討委員会を設置、検討を重ねている。定期的に学科会議などに諮問、協議して、常に改善・向上を図っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・農学原論、農業実習（一）（二）（三）および生物学実験などを配し、農学の起源を踏まえて、実習と実験を重視したカリキュラム体系になっている。	<b>【長所】</b> ・卒業論文を早い段階で意識させ、問題解決能力、計画力、思考力やプレゼンテーション力を身に付けさせられる。	<b>【長所】</b> ・実習、演習を重視することで、知識だけでなく、思考力、判断力、問題解決能力を身に付けさせられる。	<b>【長所】</b> ・全員に卒業論文に取り組みせることで、学習成果の把握を可能としている。	<b>【長所】</b> ・もともと伝統のある農学科の特徴である実験、実習を重視した教育方針を継承されている。
	<b>【特色】</b> ・実学を意識した実験、実習を実施している。学科内の6研究室の特色を最大限に活かした生物学実験（2年次担当科目）を実施して、3年次での専門分野を学ぶ研究室選択に役立っている。	<b>【特色】</b> ・卒業論文を早い段階で意識させ、問題解決能力、計画力、思考力やプレゼンテーション力を身に付けさせられる。	<b>【特色】</b> ・社会人や大学院生として主体的、協働的な活動ができる能力を重視した評価となっている。	<b>【特色】</b> ・卒業論文は3年次のできるだけ早い段階から意識付けを行い、卒業後の幅広いニーズに対応できるよう配慮している。	<b>【特色】</b> ・実習は伊勢原農場の協力が欠かせない。協力を得ながら、充実した内容となっている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・特になし。	<b>【問題点】</b> ・特になし。	<b>【問題点】</b> ・特になし。	<b>【問題点】</b> ・特になし。	<b>【問題点】</b> ・教員の業務量増加で、本取り組みに充てる時間が不足している。
	<b>【課題】</b> ・COVID-19の対策であった遠隔授業の利点を活かした授業の更なる改善。	<b>【課題】</b> ・COVID-19の対策であった遠隔授業の利点を活かした授業の更なる改善。	<b>【課題】</b> ・COVID-19の対策であった遠隔授業の利点を活かした授業の更なる改善。	<b>【課題】</b> ・COVID-19の対策であった遠隔授業の利点を活かした授業の更なる改善。	<b>【課題】</b> ・学生の履修において授業の選択幅が狭い。
根拠資料名	資料基1（令和3年度時間割）	資料基2（共通演習発表資料）	資料基3（農学科3ポリシー）	資料基4（令和3年度 農学科卒業論文発表会報告）	資料基1（令和3年度時間割）

## 2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	2018年4月からの学部改組が実施されたことを踏まえ、学科の独自性を確保しながら、農学部全体を盛り上げるべく、出張講義等に赴き学生募集に取り組んだ。さらに、入学センターと連携し、新しい入試制度である指定校選抜をスムーズな導入、今年度は7名の志願者であった。加えて、個々の選抜制度の目的にそって、口述試験（面接）の評価基準を更新した。共通テスト利用でも2科目型の導入、3・4科目型でも理科の科目を増やすなど、これまで以上に多くの生徒が志願できるよう環境を整えた。	農学部入試広報委員会と連携を取りながら、改善・向上に向けて取り組んでいる。特に出張講義には力を入れて、高校生からの反応を見極め、アドミッション・ポリシーなどの改善に向けた参考とした。さらに、入試イベントは可能な限り対面形式として、模擬農学科体験、教員との懇談を図り、受験生にできる限り寄り添い、農学科の特徴を伝えることに努めた。遠隔形式においても、対面形式に劣ることが少なくなるように、時間を掛けて対応して農学科の特徴を伝えることに努めた。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・学科の入試問題作成委員会を中心に、適切な入試問題、面接での質問事項の改善に努めた。 ・志願者数については、COVID-19の影響を最小限に止めた。	<b>【長所】</b> ・受験生ひとり一人に時間を掛けて対応することで、農学科教員の学生と一緒に学び、研究に取り組む姿勢、雰囲気を与えている。
	<b>【特色】</b> ・積極的に若手教員を動員して、長期的に一貫性を保ち公正な入学者の選抜を実施できる体制を整備した。 ・出張講義など高校等からの要請に可能な限り対応し、かつ若手教員の積極的な派遣により、最新の研究内容を紹介して、農学科の魅力の広報に尽力している。	<b>【特色】</b> ・農学部全体の取り組みの中で、農学科としての特徴を明確にした。その中で、生産農学という軸は維持しつつ、消費者のニーズを意識する生産から流通までの学びが理解できる取り組みに努めている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・他学科との志願者の競合および志願者全体の下げ止まり。	<b>【問題点】</b> ・改善に向けた取り組みを検討する時間が足りない。
	<b>【課題】</b> ・コロナ禍での受験者確保に向けた活動、特に入試イベント等への参加を促す情報発信の創意工夫。さらに、高校生、高校教諭および保護者など対象毎に、それぞれに関心をひいてもらう、かつ求めている情報を精査して発信できていない。	<b>【課題】</b> ・改善に向けた取り組みを十分に検討できる時間を捻出できていない。
根拠資料名	資料基5（令和3年度出張講義一覧）	資料基5（令和3年度出張講義一覧）

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する現状説明	本年度、大学、学部の方針に則って、農学部でも以下の通り明示した。 1. 持続可能な次世代型農業の創造に貢献できる教員 2. 農学に関する知識を基盤に、作物生産の発展に資する教育・研究能力を持つ教員 3. 農学に関する知識を基盤に、農産物の生産から流通までを支える技術の発展に資する教育・研究能力を持つ教員	学科の教育研究上の目的、教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを十分理解し、その具現化に向け強い意欲を持つ教員を研究室に配置した。さらに、研究室の教員間のコミュニケーションの向上を図るために研究棟の研究室配置をフロア毎に再配置した。新規採用の人事を進めるにあたって、編制方針を意識した。	本年度に次年度の新規採用教員（助教1名）を公募した。公募にあっては、伊勢原農場と連携して、本学の理念を理解して、実習担当はもちろん、研究室での卒業論文指導とともに、研究室活動が担える人材を選考した。昇格人事については適切に行った。また任期制教員への指導も、「大学任期制教務職員の専任化審査判定表」に基づき適切に行った。	学科内の研究室横断型の卒業論文の推進などを通じて、教員の質の向上に努めた。さらに、これらが学科全体で今後取り組めるプロジェクト等のシーズとなるように、学科としての卒業論文発表会を実施した。	学部改組にともない、新生農学部も完成年度を迎えた。学科内の主任会において、教員組織の適切性について、点検・評価した。また今後の教員採用に際し、農学部の未来を見据えた議論を行った。
現状説明を踏まえた長所・特色	<b>【長所】</b> ・農学部のディプロマ・ポリシーにのっとった内容になっている。	<b>【長所】</b> ・実習教育を意識した教員配置になっている。	<b>【長所】</b> ・新規採用については、当該研究室の今後の方向性を議論、幅広く、かつ深い専門性はもちろん、本学の教育を理解し、人材育成にも貢献できる教員を幅広く募っている	<b>【長所】</b> ・研究室間のコミュニケーションを意識し、必要に応じて各研究室の教員の強みを活かして、研究室横断的に卒業論文の指導に取り組んでいる。	<b>【長所】</b> ・前研究室の教授が参加する主任会で議論、方向性を決定している。
	<b>【特色】</b> ・研究室はもとより、分野を意識した内容になっている。	<b>【特色】</b> ・実学主義を踏まえた研究活動を教育に活かせる教員を配置している。	<b>【特色】</b> ・研究者としてだけでなく、教育者として、多くの人材を育てることのできる若く活動的な人材を求めている。	<b>【特色】</b> ・各研究室との緊密な連携を図ることで、教育や研究の成果の社会実装を推進、教員の資質向上を図っている。	<b>【特色】</b> ・主任会での方向性を学科会議で示し、学科全体で議論することで、組織全体の改善、向上を図っている。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<b>【問題点】</b> ・特になし。	<b>【問題点】</b> ・特になし。	<b>【問題点】</b> ・新規採用者を決定する時期が極めて遅い。	<b>【問題点】</b> ・特になし。	<b>【問題点】</b> ・特になし
	<b>【課題】</b> ・特になし。	<b>【課題】</b> ・特になし。	<b>【課題】</b> ・より良い人材を確実に確保するために、採用行程を早期かつ迅速にする必要があるが、大学組織が巨大で鈍重となり改善が進まない。	<b>【課題】</b> ・特になし。	<b>【課題】</b> ・議論に充てる十分な時間が足りない。
根拠資料名	資料基3（3つのポリシー）	資料基3（3つのポリシー）	資料基6（教員公募案内）	資料基7（研究成果概要）	資料基8（学部・学科・課程紹介）



学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 馬場 正  
 学科名・専攻名 動物科学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 講じている <input checked="" type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・H30年度に農学部を改組し、動物科学科としてのカリキュラムがR3年度で4年次まで完成した。現在これを踏まえて令和5年度開始の新カリキュラムを予定している。	・教育・研究に関する学生の発表を教室以外のオープンスペースで積極的に実施している。 ・コロナ禍においては研究室での密を避けるため、担当学生との打ち合わせなどもオープンスペースを利用し、効果を上げている。	・進級、卒業判定会議の結果を学科教員全員に開示し、確認している。 ・学科目は出来る限り複数教員が担当し、相互に成績確認しながら最終評価を下している。	・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）は、毎年学科会議で確認している。	・教育課程及びその内容、方法の適切性について学生による授業評価を実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学部としての学生像をふまえた、学部共通科目の充実	【長所】 ・討論へ自由参加	【長所】 ・成績評価の共通理解	【長所】 ・学習効果の共通理解	【長所】 ・定期的な点検・評価
	【特色】 ・農学リテラシー	【特色】 ・オープンスペースの活用	【特色】 ・複数教員による学生評価	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・学部共通で金曜を1年次必須の農業実習、原則全教員対応としたため、時間割、空き教室等がタイトである	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・R5年度開始新カリの農学部共通科目について時間数、担当者を含め再検討する。	【課題】 ・学部再編成で新たに生じた学科配当スペース(研究棟会議室等)の有効利用	【課題】 ・リモート環境での学生評価	【課題】 ・対面とリモート講義を組み合わせた効果的学習法の検討	【課題】 ・R5年度開始新カリ作成に当たり、教職も含めた既得資格の存続と食品衛生管理者任用資格の再取得を目標とする。
根拠資料名	カリキュラム・ポリシーとシラバス	オープンスペース利用記録	合同教授会、進級等の資料	学科会議議事録	全学FD委員会でデータを保管。

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部としての学生像を踏まえ、学科の独自性を確保しながら、学生募集等に取り組んだ。</li> <li>・R3年度からは指定校推薦制度を導入し、神奈川県と東京都を中心に全国 257 高校を選定し、18 名の新入生を得るに至った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張講義には力を入れて、積極的に行っている。高校生ならびの高校教員からの反応を見極め、アドミッション・ポリシーなどを改善した。</li> <li>・選抜入試制度毎の学生の GPA、研究室入室後の卒業論文への取り組みなどの評価、検証を行うべく準備している。</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・アドミッション・ポリシーに基づいた入学試験科目の検討	<b>【長所】</b> ・学部、学科としての制度や体制の見直し
	<b>【特色】</b> ・なし	<b>【特色】</b> ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・なし
	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・なし
根拠資料名	入学センター入試選考委員会議事録	入学センター入試選考委員会議事録

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> つなげている <input checked="" type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する現状説明	・大学・学部の方針に則り、動物に係る生殖、遺伝、生理といった生命科学関連領域、および栄養、衛生、動物行動といった良質で安全な食料を生産する生産科学領域で活躍できる人材を養成し得る強い意欲と能力を持った教員をバランスよく配置する。	・教育研究上の目的、教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを十分理解し、その具現化に向け強い意欲を持つ教員を研究室に配置した。	・教員の募集、採用は完全公募制とし大学ホームページならびに JRECK-IN で公開している。 ・昇格基準を満たした教員に対しては、昇格申請を提出する様に指導している。	・任期制教員に対しては、毎年教育・研究目標の達成状況を面談にて確認している。任期制教員以外は、大学が実施している自己点検に委ねている。 ・ベストティーチャー賞, ベストレクチャー賞を学部毎に毎年選出している。	・学科教授会において教員組織の適切性(特に職階と年齢構成)について確認している。
現状説明を踏まえた長所・特色	<b>【長所】</b> ・ディプロマ・ポリシーに基づいている	<b>【長所】</b> ・学際的領域をカバー出来る学科教員体制	<b>【長所】</b> ・複数の媒体による公募のため一募集あたり 15 名前後の応募がある	<b>【長所】</b> ・なし	<b>【長所】</b> ・なし
	<b>【特色】</b> ・なし	<b>【特色】</b> ・研究室, 分野を考慮した編成	<b>【特色】</b> ・なし	<b>【特色】</b> ・任期制教員に対しては学部長, 学科長など複数による面談実施	<b>【特色】</b> ・なし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<b>【問題点】</b> ・なし	<b>【問題点】</b> ・分野によって教員の職階と年齢のバランスが取れていない場合がある。	<b>【問題点】</b> ・一部昇格が停滞している教員がいる。	<b>【問題点】</b> ・教員への評価は業績に偏り人格の評価が難しい	<b>【問題点】</b> ・なし
	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・なし	<b>【課題】</b> ・なし
根拠資料名	・大学 HP の教員・職員公募案内 ・JREC-IN Portal	・東京農業大学農学部教員紹介 農学部 GUIDE 農のこころで社会をデザインする	・大学 HP の教員・職員公募案内 ・JREC-IN Portal ・学科会議事録	・任期制教員面談記録 ・大学ホームカミングデー案内	・学科会議事録

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 馬場 正  
 学科名・専攻名 生物資源開発学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 講じている <input checked="" type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> している <input checked="" type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教育課程の編成の考え方及び特色に従って、体系的に編成している。	オムニバス形式の講義を一定数開講し、学科教員の講義に広く接する機会を設け、学生の教育効果の向上を図った。また、通常の講義以外にも生物多様性に関わる特別講義を実施している。	シラバス等で科目ごとに評価基準を明記すると同時に、初回講義において学生に説明している。シラバスの作成及び成績評価は大学の基準を順守して行った。研究や研究室活動で優秀な学生を学位記授与式などで表彰する仕組みの構築に努めている。	オリエンテーションやフレッシュマンセミナー、実習・演習、必修の専門基礎科目、分野別実験・演習時に学科の教育・研究目標を明示し、レポート等で学習成果の把握に努めている。	改組に伴い1年次生の実習・演習がほぼ学部共通の内容となったことで、学科内での点検のみならず、学科横断的な検討委員会を設置し、内容の改善・向上に取り組んでいる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> 1年次から、農学の基盤となる「生物多様性」を意識した教育を実施している。	<b>【長所】</b> オムニバス形式の講義により学科教員の講義に広く接する機会を設けている。	<b>【長所】</b> 学生個々の研究や研究室活動を評価するよう努めている。	<b>【長所】</b> 実習ではポートフォリオの作成を指導している。	<b>【長所】</b> ・教職員と事務職員で構成される「改組検討委員会」を設置している。
	<b>【特色】</b> 1年次から、座学のみならず、実習・演習科目を前・後期に配置している。	<b>【特色】</b> 講義以外のプログラム実施による生物多様性に関する学習機会を設定している。	<b>【特色】</b> 学生の研究内容や研究室活動の実績を踏まえて優秀な学生を選定し、学位記授与式において学科長賞を授与する。	<b>【特色】</b> 特になし	<b>【特色】</b> 学科横断的な改組に関する検討委員会を定期的に開催している。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> 特になし	<b>【問題点】</b> 特になし	<b>【問題点】</b> 特になし	<b>【問題点】</b> 特になし	<b>【問題点】</b> 特になし
	<b>【課題】</b> 特になし	<b>【課題】</b> 特になし	<b>【課題】</b> 特になし	<b>【課題】</b> 特になし	<b>【課題】</b> 特になし
根拠資料名		1_1. 特別講義①第3回資源の森ポスター 1_2. 特別講義②1、2年生対象ポスター			1_3. 2021年度・改組点検委員会構成メンバー

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	本学科は特定の農用生物のみならず、野生の動植物から昆虫、薬用植物とそれらの遺伝資源に至る幅広い生物に興味関心を持つ学生を求めており、入試課とも連携して入試制度を整備し、学生募集等に取り組むとともに、公正な入学者選抜に努めた。	開設年度より毎年、学科独自の新入生アンケートを実施し、入学後のミスマッチが起きないように、学科教員間で情報共有に努めている。さらに、新入生に対して学科教員ごとにクラス別懇談会を実施し、学生生活を円滑に送ることができるよう配慮している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> 農学系のみならず理学（生物学）系、薬学系志望の学生にも魅力的な学科であること。	<b>【長所】</b> アンケートを活用した入学後ミスマッチの防止に努めていること。
	<b>【特色】</b> 近年、農学分野でもその重要性が認識されはじめた「生物多様性」をキーワードとした学科紹介を徹底していること。	<b>【特色】</b> 出張講義、進学相談などあらゆる機会を捉えた広報宣伝活動による学科の教育・研究への理解促進に努めたこと。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> 特になし	<b>【問題点】</b> 特になし
	<b>【課題】</b> 特になし	<b>【課題】</b> 特になし
根拠資料名	2_1. 2021 年度・オープンキャンパス開催報告	2_2. 資源学科・新入生アンケート結果 <sup>㊟</sup>

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	大学・学部の方針ならびに学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教員組織の編成の考え方及び特色に従った方針を学科として明示している。	学科新設時に教育研究上の目的を十分理解し、その具現化に向けた強い意欲を持つ教員配置が行われ、維持されている。	令和5年4月着任教員の枠取り申請および令和4年4月着任教員の選考、令和4年4月における学科教員の昇任申請を適切に行った。また設置4年目となり、大学院設置を見据えた昇任等を適切に行なった。	学内外の研究費への積極的な応募による教員の個人研究の推進、他機関研究者との共同研究の推進、さらには研究室や学部横断型の学内外プロジェクトの推進などを通じて、教員の資質の向上に努めている。	教育・研究以外の業務が特定教員に偏らないよう、学科会議等を通じ、組織内での役割分担の点検・評価を行うとともに、事務職員との連携を深め作業の効率的を計るよう努めている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 実験系とフィールド系教員のバランスを意識したこと。	【長所】 実験系とフィールド系のバランスが取れた教員組織となっていること。	【長所】 大学院設置を意識した人事計画。	【長所】 調査・研究に対する意欲が高い教員が多いこと。	【長所】 特になし
	【特色】 農学の基盤となる「生物多様性」をキーワードとする学科であるため、「植物・動物・昆虫・薬草・遺伝資源」と多様な分野をカバーする教員組織を謳っていること。	【特色】 農学のみならず理学、薬学、人間環境学と多様な分野をカバーする教員構成となっていること。	【特色】 特になし	【特色】 ほぼ全教員が学内外の研究費を獲得し、個人、共同研究プロジェクトを遂行するとともに、教育にも還元する努力をしていること。	【特色】 事務組織との連携を意識していること。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし
	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし
根拠資料名	3_1. 2021年度-学部・学科課程紹介・農学部生物資源開発学科	3_1. 2021年度-学部・学科課程紹介・農学部生物資源開発学科	3_2. 資源学科 2021年度学科教授会議事録	3_3. 2021年度・大学戦略研究プロジェクト成果報告会概要	3_4. 資源学科教員の学内業務履歴

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 馬場 正  
 学科名・専攻名 デザイン農学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教育課程の編成の考え方及び特色に従って、体系的に編成している。	座学と実習・演習との関連について説明しながら授業を展開している。実習・演習では内容ごとに詳細を記した資料を配付している。	シラバス等で科目ごとに評価基準を明記している。大学の基準に従った成績評価および単位認定を行った。完成年度を迎え、学位授与を行った。	学生の履修・単位取得の状況および進級・卒業判定の情報を学科教員で共有し、必要に応じて学生指導を行っている。	学科内での点検のみならず、学科横断的な検討委員会を設置し、内容の改善・向上に取り組んでいる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 なし	【長所】 配付資料を活用した復習ができ、知識の定着が期待できる。	【長所】 なし	【長所】 クラス担任および研究室教員による細やかな学生指導が可能である。	【長所】 なし
	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	・履修のてびき	・シラバス〔農業実習(一)(二)〕〔デザイン農学基礎実験実習・演習〕〔デザイン農学専攻別実験実習・演習〕	・履修のてびき ・学生生活ハンドブック〔成績、進級、卒業〕	・履修のてびき	・学科会議議事録 ・学部改組点検委員会議事録

## 2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	アドミッションポリシーに従った学生募集及び公正な入学者選抜を実施した。	学生の履修状況と興味のある領域についての把握を行い、3年次以降のより専門的な教育と研究指導につなげられるように努めている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> 学科の特色でもある理系のみならず文系の学生を獲得するために、文科系の入試科目を設定している。 オープンキャンパスなどで受験生に対して学科の説明を行っている。	<b>【長所】</b> なし
	<b>【特色】</b> なし	<b>【特色】</b> なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> なし	<b>【問題点】</b> なし
	<b>【課題】</b> なし	<b>【課題】</b> なし
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学案内</li> <li>・学科会議議事録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科会議議事録</li> </ul>

## 3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学部の完成年度以降、研究科を含めた適切な教員組織編成に関して、検討を随時行っている。	学科を新設する際に予定された教員組織編成となっている。	退職する教員の後任人事を適切に実施している。 研究科の新設に向け、昇任を適切に行っている。	学科会議等で意見交換・検討を行っている。	定期的に点検評価を実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 なし	【長所】 各研究室3名の教員を配置し、円滑で細やかな教育研究活動を行うことができる。	【長所】 学科および研究室教員の専門性、年齢構成を考慮した人事を行っている。	【長所】 なし	【長所】 なし
	【特色】 なし	【特色】 学科の特色である幅広い「農」の領域をカバーする教員編成となっている。	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	・ 学科会議議事録	・ 大学案内 ・ 学科会議議事録	・ 学科会議議事録	・ 学科会議議事録	・ 学科会議議事録

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長 馬場 正  
 学科名・専攻名 農学科

## 1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	学生と教員とのより良いパートナーシップの構築による学士力の向上		
実行サイクル	<u>1</u> 年サイクル（令和3年～4年）	<u>        </u> 年サイクル（平成 <u>        </u> 年～ <u>        </u> 年）	<u>        </u> 年サイクル（平成 <u>        </u> 年～ <u>        </u> 年）
実施スケジュール	4月：新入生オリエンテーションの実施（1年生） 5月、7月：クラス別懇談会の実施（1年生） 9月：世界学生サミットへの参加（全学年） 11月：収穫祭文化学術展への参加（1年生、3・4年生） 通年：農業実習（一）（二）での学科独自の学内実習（1年生） 通年：学外農業研修・実習報告会の開催（全学年） 通年：演習・実験・卒論研究室における取り組み（3・4年生）		
目標達成を測定する指標	原級率、就職率および進学率		
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	COVID-19による感染症のため、新入生オリエンテーションなどが開催は実施できなかった。一方、1年生のクラス別懇談会や農業実習（一）のサツマイモ栽培で学生と教員との交流を図った。さらに、オンライン収穫祭において研究室単位での研究紹介に積極的に取り組んだ。遠隔と対面との授業形式の併用で教員と学生との新しいコミュニケーションの形が生まれた。		
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・実習や実験など教員と学生との共同作業で苦楽を共有する。	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・研究室活動、各科目やオフィスアワーで教員が学生の状況を常に把握している。	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・COVID-19対策による対面機会の減少。	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・対面機会の減少に即した ZOOM や Teams 等の更なる活用。	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	資料包1（第22回 厚木キャンパス収穫祭 オンライン収穫祭 文化学術展 植物病理学研究室 ペーパーノ班）		

## 2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	研究室連携型卒業論文の推進による研究シーズの発掘		
実行サイクル	____1____年サイクル（令和3年～4年）	____年サイクル（平成 ____年～ ____年）	____年サイクル（平成 ____年～ ____年）
実施 スケジュール	通年：大学院農学専攻と連携しこれを軸とした研究発表会等の開催		
目標達成を測 定する指標	連携型卒業論文数		
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	COVID-19による感染症のため、大学院生も学部生もキャンパスへの入構が一部制限されたため、緊密な研究室間および農学専攻との連携を図ることに支障があった。このような現状であっても、4年生は卒業論文にしっかりと取り組んだことで、次年度以降の研究シーズとして期待できる研究成果も少なくなく、目標達成への影響は最小限に抑えられた。さらに、今年度は修士論文発表会と併せて各研究室代表者が発表する学科主催の卒業論文発表会を開催した。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・実験時間に制限があった分、計画的かつ集中して実験を実施する。 ・所属研究室内のチームワークの質が向上する。	<b>【長所】</b> ・	<b>【長所】</b> ・
	<b>【特色】</b> ・所属研究室以外の研究室の教員、大学院生および学部生との交流が活発となる。	<b>【特色】</b> ・	<b>【特色】</b> ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・COVID-19の感染防止対策を徹底するための実験場所と時間の確保。	<b>【問題点】</b> ・	<b>【問題点】</b> ・
	<b>【課題】</b> ・さらに緊密な研究室間の連携。	<b>【課題】</b> ・	<b>【課題】</b> ・
根拠資料名	資料包2（令和3年度 農学科卒業論文発表会報告）		



学部 農学部  
 学部長名 馬場 正  
 学科名 動物科学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	進級・卒業率の向上	卒業生による特別講義の実施	優秀論文発表会の実施
実行サイクル	4年サイクル（平成30年度～令和3年度）	4年サイクル（平成30年度～令和3年度）	
実施 スケジュール	・出席状況不良者への指導（毎年6月，7月） ・成績不良者への指導（毎年5月，2月）	・毎年前期1～2回程度	・毎年1月（各研究室口頭発表1名，ポスター発表複数名）
目標達成を測 定する指標	・進級・卒業率	・実施回数	・実施の有無
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	1年次2名、2年次4名、3年次8名、4年次6名留年。	コロナ禍で実施できなかった。	コロナ禍であったが対面とオンライン併用にて実施できた。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・担任によるきめ細かい指導	【長所】 ・リモート講義環境を利用して外部講師を依頼できる ・同窓生との連携	【長所】 ・学科の他研究室の研究を聴講出来る。
	【特色】 ・メール，面談等による個別指導	【特色】 ・本学科卒業生に限定している	【特色】 ・オンライン利用により参加者の負担減。 ・学生の専攻希望の判断材料になる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・コロナ禍により対面による指導が十分できない	【問題点】 ・日程調整が難しい	【問題点】 ・幅広いテーマを扱う学生の発表に対して学科教員が採点し、順位付けを行うが、上位の研究テーマが固定してきている
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名	学科会議議事録	学科会議議事録	優秀卒論発表会講演要旨

2. 研究に関する総合的事項

	①	②
目 標	学会発表への参加	論文発表への参画
実行サイクル	4年サイクル（平成30年度～令和3年度）	4年サイクル（平成30年度～令和3年度）
実施 スケジュール	年間を通じて	年間を通じて
目標達成を測 定する指標	具体的な指標は定めていない。	具体的な指標は定めていない。
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	・研究室個々の活動と、研究室、学科、学部間の連携した活動	・研究室毎の事情により学部学生は参加しないことが多いが、大学院進学への動機付けにもなる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・研究に対するモチベーションのアップ	【長所】 ・研究に対するモチベーションのアップ
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・調査しないと現状が分かり難い	【問題点】 ・調査しないと現状が分かり難い
	【課題】 ・学科HP, 研究室HP・FBでの積極的な公開	【課題】 ・学科HP, 研究室HP・FBでの積極的な公開
根拠資料名	関連学会HP	PubMed, 関連学会HP

3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	改組に伴う新旧カリキュラムの円滑な移行
実行サイクル	4年サイクル（平成30年～令和3年）
実施 スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ H31～R3（H29, H30, H31（R1）年度カリキュラムの混在）</li> <li>* H31(R1)年度以降カリキュラムは同じ</li> </ul>
目標達成を測 定する指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間割編成</li> <li>・ 単位取得状況</li> </ul>
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 畜産学科カリキュラム（H29）、動物科学科カリキュラム(H30)、動物科学科カリキュラム(H31)が数年に亘り共存</li> <li>* H31(R1)年度以降はカリキュラムは同じ</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ R5カリキュラムにむけ適正開講科目を見直す</li> </ul>
	<b>【特色】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農学部全学科横断的実習、演習、英語科目の設置、R5に向けては学科の既存資格の維持と前カリキュラム編成に伴い失った資格の復活</li> </ul>
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新旧カリキュラムの混在（R3年度から留年した学生以外は新旧カリキュラムは混在しなくなる）</li> </ul>
	<b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農学部全学科横断的実習、演習、英語科目の運用方法</li> <li>・ With コロナ、Post コロナにおける教室の確保</li> </ul>
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間割編成</li> <li>・ 単位取得状況</li> </ul>

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 馬場 正  
 学科名・専攻名 生物資源開発学科

## 1. 教育に関する総合的事項

	①	②
目 標	ディプロマ・ポリシーを実現するための完成年度に向けた教育課程の構築	学生の教育環境の保証（大学生生活を含めた学生の充実した教育環境作り）
実行サイクル	4年サイクル（平成31年～令和3年）	1年サイクル（令和2年～令和3年）
実施 スケジュール	年間を通じて：学科会議等 12～1月：シラバス作成時	年間を通じて：学科会議において教員間で学生の教育および大学生生活の現状を共有する（4～3月）
目標達成を測 定する指標	シラバスの作成と点検・見直し	学科会議議事録（教員への周知と議論内容） 学科独自プロジェクトの立ち上げ
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	実習・演習、必修の専門基礎科目、分野別実験・演習時に学科の教育・研究目標を明示し、レポート等で学習成果の把握に努めた。卒業論文では、失敗と成功を繰り返しながら自ら取り組むよう促した。	学科独自の新生アンケートの導入やクラス別懇談会の実施、必修科目を中心とした出席状況の把握と学科会議での情報共有に努めた。 山梨県小菅村、NPO 多摩源流こすげとの研究教育連携協定を締結予定（3月17日）。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> 全員が各自の卒業論文に取り組むことで、学位の意義を理解することにつながっている。 <b>【特色】</b> 幅広い研究テーマを示すことで、学生の好奇心を引き出す。	<b>【長所】</b> 学生の意識や学習意欲が把握できること。学科独自の教育の場を提供できること。 <b>【特色】</b> 学科会議ごとにFD関連の情報共有に努めている。 学年縦断、分野横断型の教育研究により、物事を多面的に見られるよう促している。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> 3, 4年生は、コロナ禍により、実習や調査の受入れが出来ない状況が生じたため、分野別実験・演習、卒業論文研究に多少の影響が出た。 <b>【課題】</b> 次年度は、コロナの状況が改善することが予想されるため、問題点も解消することが期待される。	<b>【問題点】</b> 3, 4年生は、コロナ禍により、実習や調査の受入れが出来ない状況が生じたため、分野別実験・演習、卒業論文研究に多少の影響が出た。 <b>【課題】</b> 次年度は、コロナの状況が改善することが予想されるため、問題点も解消することが期待される。
根拠資料名	3_5. 2021年度・資源学科・学科会議議事録	2_2. 資源学科・新生アンケート結果⑥ 3_5. 2021年度・資源学科・学科会議議事録 3_6. 研究教育連携協定書

## 2. 研究に関する総合的事項

①	
目 標	生物多様性の解明や保全、生物資源の利活用に関する総合的・横断的研究の基盤構築
実行サイクル	4 年サイクル（平成31年～令和3年）
実施 スケジュール	年2回程度の研究発表会等の開催 学内研究プロジェクトの推進
目標達成を測 定する指標	学内プロジェクトに関わる業績や外部資金申請数、採択数
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	学科の多数教員を構成員とし、採択された学内戦略研究プロジェクト（研究課題名：植物・昆虫・動物の多様性を指標とした島嶼農業生態系の評価と保全、期間：2019年度～2021年度、調査地沖縄県西表島）については、最終年度となり、その成果をまとめているところである。2022年度からは、厚木キャンパスから比較的近場の山梨県小菅村を調査地として、学年縦断・分野横断型のプロジェクトを開始予定である（3月17日締結式）。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> 分野横断的な研究が促進される。 学科教員によるプロジェクト研究の推進により、生物多様性に関する研究基盤の構築が進んでいる。
	<b>【特色】</b> 学生を交えた発表会とすることで、発表する教員も分かりやすい説明を心がけ、専門分野以外の研究内容も理解しやすくなる。 分野横断的な研究展開により学科の特徴を分かりやすく発信できるようになる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> コロナ禍により、一部調査の受入れが出来ない状況が生じたため、研究活動に多少の影響が出た。
	<b>【課題】</b> 次年度は、コロナの状況が改善することが予想されるため、問題点も解消することが期待される。
根拠資料名	3_3. 2021年度・大学戦略研究プロジェクト成果報告会概要 3_6. 研究教育連携協定書

## 3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	アドミッション・ポリシーに則った学生と学生数の確保
実行サイクル	_4_ 年サイクル（平成31年～令和3年）
実施 スケジュール	通年：出張講義 通年：個人・団体見学対応 キャンパスツアー、オープンキャンパス、収穫祭の進学相談時の対応
目標達成を測 定する指標	来場者数 受験者数 新入生アンケート
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	オープンキャンパスはじめキャンパス見学会などでは、ブースでの説明に加え、模擬講義や学科独自の「里山ツアー」なども実施し、受験生の確保に努めた。出張講義に関しては入試課の協力も得て、関連する分野の依頼があった際は積極的に対応している。個人・団体見学にも見学者の興味に応じた担当教員で対応している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> オンラインオープンキャンパスでは各研究室で現在取り組んでいる研究内容の紹介を行い、受験生が入学後の具体的なイメージを持てるように図った。 <b>【特色】</b> 植物から動物、昆虫、薬草、遺伝資源に至るまで幅広い分野の講義依頼への対応が可能である。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> 特になし <b>【課題】</b> 開設4年の新学科であることから、今後も学科を積極的にアピールし継続して受験者を確保していく努力が必要である。
根拠資料名	2_1. 2021年度・オープンキャンパス開催報告 2_2. 資源学科・新入生アンケート結果㊟ 4_1. 2022年度・各総合型選抜志願者数 4_2. 2022年度・一般志願者数

学部・研究科名 農学部  
 学部長・研究科委員長名 馬場 正  
 学科名・専攻名 デザイン農学科

## 1. 教育に関する総合的事項

	①	②
目 標	ディプロマ・ポリシーを実現するための完成年度に向けた教育課程の構築	学生の教育環境の保証（大学生活を含めた学生の充実した教育環境作り）
実行サイクル	<u>4 年サイクル（平成30年～令和3年）</u>	<u>1 年サイクル（令和2年～令和3年）</u>
実施 スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じて：学科会議等</li> <li>・12～1月：シラバス作成時</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じて：学科会議において教員間で学生の教育および大学生活の現状を共有する（4～3月）</li> </ul>
目標達成を測 定する指標	学科会議の実施 シラバスの作成と点検・見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科会議議事録（教員への周知と議論内容）</li> </ul>
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	学科会議を定期的および必要に応じて臨時で実施している。 新型コロナウイルス感染への対応を考慮したシラバスの見直しを実施している。	学科会議で課題点について検討を実施している。 新型コロナウイルス感染への対応から在宅学習の機会が増えたが、クラス担任および研究室教員が学生との連絡を密にし、学生生活を支援している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・特になし  <b>【特色】</b> ・特になし	<b>【長所】</b> ・特になし  <b>【特色】</b> ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・特になし  <b>【課題】</b> ・特になし	<b>【問題点】</b> ・特になし  <b>【課題】</b> ・特になし
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科会議議事録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科会議議事録</li> </ul>

## 2. 研究に関する総合的事項

①	
目 標	生物素材、食品素材等の機能性の解明やそれを応用した機能性製品や機能性食品の利活用研究を行う。また食農デザインの在り方等についても基礎的研究から実践までの提案を行う。
実行サイクル	4 年サイクル（平成30年～令和3年）
実施 スケジュール	・年1、2回程度の研究発表またはシンポジウム・セミナー等の開催
目標達成を測 定する指標	・企業等との受託研究数および共同研究数、開発製品等
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	各教員が専門とする研究領域において取り組みを進めている。 企業等との共同研究および受託研究を実施し、製品開発を進めている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・共同研究等への学生の関与により、実学的な教育も期待できる。
	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし
根拠資料名	・共同研究締結書

## 3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	アドミッション・ポリシーに則った学生と学生数の確保
実行サイクル	4 年サイクル（平成30年～令和3年）
実施 スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通年：出張講義</li> <li>・通年：個人・団体見学対応</li> <li>・キャンパスツアー，オープンキャンパス，収穫祭の進学相談時の対応</li> </ul>
目標達成を測 定する指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来場者数</li> <li>・受験者数</li> <li>・新入生アンケート</li> </ul>
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	依頼のあった出張講義や見学依頼に積極的に対応している。(令和3年度：出張講義 22 校、高校訪問 神奈川県内 49 校) 進学相談に学科教員で対応している。(令和3年度：合格者向け説明会 3 日、来学者対応多数) 学生数の確保について未達年度がある。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<b>【長所】</b> ・訪問高校から受験生の情報収集（農大への関心度、要望など）が可能である。  <b>【特色】</b> ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<b>【問題点】</b> ・学科広報活動が不十分であった。(新型コロナウイルス感染防止対策の影響あり)  <b>【課題】</b> ・神奈川県外高校へも訪問し、広報活動を拡大する。
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科会議議事録</li> </ul>